

第15回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和53年7月19日（水）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 昭和53年度8～9月期のロケット
打上げ計画について
説明者 東京大学宇宙航空研究所教授 野 村 民 也
" 助教授 雛 田 元 紀
宇宙開発事業団理事 酒 井 忠 三
" 打上管理部長 村 尾 忠 義

4. 資 料

- 委15-1 第14回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
- 委15-2 昭和53年度8～9月期のロケット打上げ計画について
- 委15-3 昭和53年度第1次観測ロケット実験計画概要
(SESノート K-№552)
- 委15-4 M-3H-3号機の実験 (SESノート K-№555)
- 委15-5 TT-500型ロケット4号機打上げ計画書
(昭和53年8・9月期)

(参 考)

- SESノート K-№553
- SESノート K-№554

委15-1

第14回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨

1. 日 時 昭和53年7月5日（水）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 第一部会分科会構成員について
(2) 航空・海上技術衛星（AMES）の開発について
4. 資 料
委14-1 第13回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
委14-2 宇宙開発委員会第一部会衛星系分科会構成員
委14-3 " " 輸送系 "
委14-4 航空・海上技術衛星（AMES）の開発について

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

" 委員

" "

" "

説明者

科学技術庁研究調整局宇宙企画課
関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

文部省学術国際局審議官

通商産業省機械情報産業局次長

網 島 毅

吉 識 雅 夫

八 藤 東 福

斎 藤 成 文

箱 石 千代彦

園 山 重 道

手 塚 晃

（代理：池之上）

水野上 晃 章

（"：吉田）

運輸省大臣官房参事官

" 気象庁総務部長

" 海上保安庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

建設省大臣官房技術参事官

運輸省電子航法研究所

郵政省電波監理局

宇宙開発事業団

"

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

" " 宇宙国際課長

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第13回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

(2) 第一部会分科会構成員について

網島第一部長から資料委14-2及び3に基づいて説明が行われ、原案どおり了承された。

(3) 航空・海上技術衛星（AMES）の開発について

科学技術庁研究調整局宇宙企画課の箱石千代彦課長補佐から資料委14-4に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答が行われた。

沼 越 達 也

（代理：藤井）

高 井 重 寿

（"：山中）

鈴 木 登

（"：石井）

門 田 博

（"：飯田）

北 野 章

（"：土肥）

木 村 小 一

九 里 茂

宇 田 宏

松 浦 雅 洋

堀 内 昭 雄

三 浦 信 他

吉識：船舶と航空機では速度が全く異なるが、両者の測位はこの衛星でできるのか。

箱石：速い移動体でも位置ぎめできるようなシステムを使うので同一の衛星で可能だと考えている。

吉識：どのくらいの精度で位置決定できるのか、また衝突の防止に利用できるのか。

箱石：精度は1海里程度である。

A M E S の大洋上の移動体を対象としており、内海や湾内のように狭い範囲のところでは、衝突の警告は精度からみて困難であろう。実験ということで考えていただきたい。

網島：実験段階は別としても、実用に入るときは船舶用と航空機用を別にする必要があると思うが、それぞれのミッションに対応して2個の衛星を打ち上げるのか、それとも1個の多目的衛星を打ち上げるのか。

木村：米国でも別にすべきか否か問題になつている。

一緒にした場合は数10%の経費が節約になるという報告がある。

八藤：今後の参考のために本衛星のとりまとめに当つた A M E S 協議会の精密な議事録を残しておいた方がよい。

新しい試みの実験であり、大変意味のあるものなので、今後各省の協力のもとに実験を進めてもらいたい。

昭和53年度8～9月期のロケット打上げ計画について

月日	ロケット	打上げ機関	目的	予備日
8/15 (火)	K-9M-63	東京大学	恒星の星姿勢計で問題となる点をロケットで試験し、基礎的な設計資料を得る。	8/16～8/20
8/17 (木)	K-9M-64	東京大学	波長1050Å～3,200Åの間を8つのバンドに分けて、早期型星と銀河の散光成分の多色測光を行う。	8/18～8/23
8/24 (木)	MT-135P型 ロケットT-22号機	宇宙開発 事業団	種子島上空の風向、風速、温度等の気象データを取得する。	8/26～9/4
8/25 (金)	TT-500型 ロケット4号機	宇宙開発 事業団	種子島、小笠原島の飛行安全引継ぎ訓練並びに小笠原追跡所を含むロケット追尾系の機能及び射場システムの機能を確認する。	8/26～9/4
8/26 (土)	MT-135P型 ロケットT-23号機	宇宙開発 事業団	種子島上空の風向、風速、温度等の気象データを取得する。	8/27～9/4
9/14 (木)	M-3H-3	東京大学	ホ6号科学衛星、EXOS-Bを長楕円軌道にのせ磁気圏、電離圏の研究を行う。	9/15～9/28